我が署における多様なＰＲ活動

駒ヶ根署・総務課長　山本（やまもと）　文雄（ふみお）

要　旨

国有林はＰＲ不足とよく言われるが、我が署は地域に対し国有林野事業の役割、経営改善に対する理解と協力を得るため、これまで工夫を凝らした多様なＰＲ活動を展開しており、その活動内容の一例を紹介する。

はじめに

我が国における森林に対する関心は、地球規模での自然環境の悪化等を背景にその重要性を見直す声の高まりがある一方、森林を守り育てる林業は、木材生産の低迷、後継者不足などからその活性化を図ることが急務となっている。

国土面積の役２割を占める国有林においても、自然保護の要請、保健機能の充実など国有林の持つ多様な機能の発揮を期待する声は年々高まりを見せており、国有林に対する関心も以前にも増した高まりを見せている。

このような中で私たちの職場に対して、地域からは国有林は、森林、林業の活性化のためにも森林・林業の正しい知識をもっとＰＲすべきであるという声が聞かれ、また職場内部からも営林署の知名度も低く、職場にも活気がないという声が聞かれる。

我が署は、このような状況の下、もっと多くの人に森林、林業の知識の効用を図り国有林に対しても理解を深めていただき、併せて職場の活性化も図っていこうと積極的なＰＲを実施してきたところである。今年度においても広報活動の強化に努めることを業務方針に定め工夫を凝らした様々なＰＲ活動を展開してきた。

これら活動の一例について紹介する。

１．活動の内容

（１）植樹祭の実施

これまでの植樹祭に工夫を加え、植樹作業と併せて地元小学生による「森のコンサート」と治山事業のＰＲを実施した。

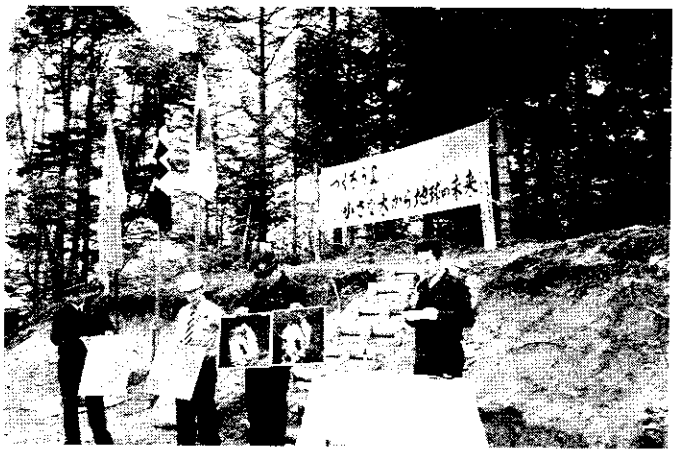
例年実施され、慣例化しきっている植樹祭も、地元小学生４０名による歌声の披露は、これまでの植樹祭と違った取り組みとして参加者から好評を得ることができた。（写真－１）

写真－１

併せて、当署の事業の中でも大きなウェイトを占めている治山事業について、現地の治山事業の概要を交えながら事業の必要性についてＰＲした。（写真－２）

植栽木の選定にあたっても、現地の将

来の景観を考慮し「実もの」「花もの」「色もの」と、四季を通じて楽しむことのできる樹種として「エゾヤマザクラ」「ヤマグリ」の2種を選定した。（写真－3）



写真－2

写真－3

（2）コマクサ増殖活動の実施

当署では、絶滅した「コマクサ」を復活させようと、20年前から中央アルプスにおいて「コマクサ」の増殖活動に取り組んでいる。（写真－4）

この活動も今年20周年を迎えたことから、活動の成果と高山植物の保護を呼びかけるため関係者のほか20周年にちなんだ20才の女性を一般募集し、入山者の多い8月に実施した。（写真－5）

当日は地元駒ヶ根市のイベントキャンペーンガール「アルプスレディ」の参加もいただき、これまでの活動と、高山植物の保護について広く呼びかけることができた。（写真－6）

写真－4

写真－5

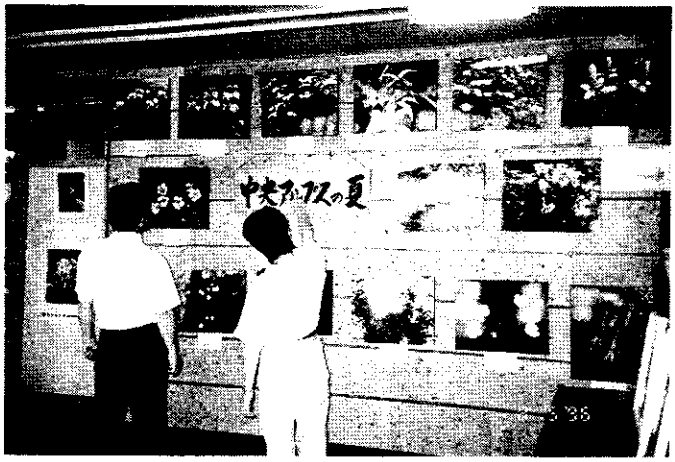
写真－6

（3）営林署玄関での写真展の開催。

当署では、これまで収集した貴重植物の写真及び治山事業を記録した写真が資料として多数あることから、これらを有効活用するための一つの手段として営林署を訪れる一般の方の一番最初に目つく場所である玄関ロビーで写真展を開催した。（写真－7）

本年度は、7月から11月までそれぞれテーマを設け、下表のとおり実施した。

なお、このようなスタイルの写真展は、実施にあたって手間がかからないことから、資料写真を整理充実させ、今後、年間開催することも考えている。



写真－7

表－ 写真展の開催状況

テ ー マ	開催期間	内　　容
中央アルプスの夏	7月～8月	高山植物の紹介
緑の蘇生	9月	治山事業の実施経過
国有林の利用区分	10月～11月	森林の機能類型の紹介

（4）地元主催のイベント等への参加

例年開催される地元市町村等主催による、春の「みどりの感謝祭」及び、秋の「森林感謝祭」に参加し、展示と即売会を実施した。

写真－8

写真－9

４月に開催された「みどりの感謝祭」では即売会の実施を中心に国有林をＰＲした。

１０月に開催された「森林感謝祭」では、「国有林の役割と利用区分」と題し、写真の展示とともに国有林の四つの機能類型別の森林のスタイルを「盆景」により表現し、会場に訪れた多くの一般者の目を引いた。（写真－８）

即売会は、職員手作りの木工品、園芸資材、切り花、メグスリノキなど多数展示即売し、わずかではあるが、新規収入の手段としている。（写真－９）

（５）官公署の集まりの会への参加

地元駒ヶ根市では、市内官公署の長が一同に会し情報交換を行う「山水会」が定期的に催されている。毎回この会に参加し、これまで国有林の役割、森林の効用、木材利用の推進などパンフレット、チラシなどを使用してＰＲし、国有林の諸施策に対する理解と協力をいただいている。

さらに、この会に参加し情報交換を行う中で他の官公署のイベントへの協力（高山植物等の写真の貸し出し）、市内福祉施設へのクリスマスツリーの配布、木工品等の販売なども行っている。（写真－10）

写真－10

（６）手作り大型看板の設置

当署では、これまで、職員工夫の大型看板を入り込み者の多い国有林内に設置し、現地の説明、自然保護の呼びかけを行っている。

写真－11は、中央アルプス千畳敷に設置している大型看板である。写真－12は、植物群落保護林の説明板である。

看板は、木製で文字を彫り込み上から塗料を塗るなどの加工を行い、厳しい自然環境にも長期間耐え得るよう工夫している。

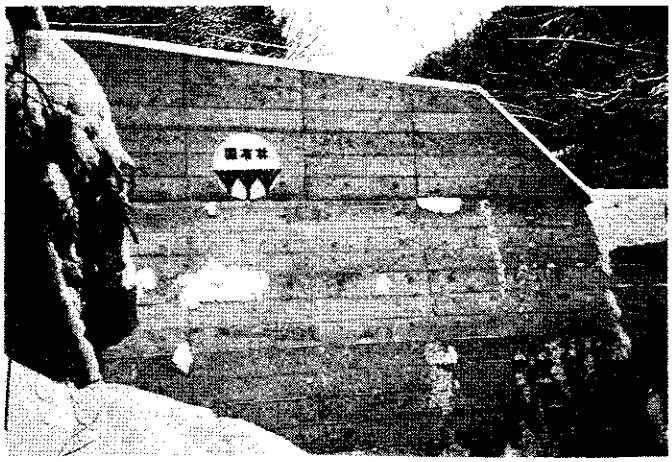
このような看板は、中央アルプスをはじめ、主要な地点にこれまで約２０ヶ所設置してきた。

写真－11

写真－12

これまで紹介したＰＲの例以外でも、現在試験中であるが、谷止め堰堤に国有林マークを設置し、治山事業のＰＲ効果を高めようと試みている。（写真－13）

また、職員有志によるいかだ下りへの参加など、地域のイベントにも積極的に参加し国有林をＰＲしてきた。（写真－14）



写真－13

写真－14

２．ＰＲの効果

これまでの活動は、新聞、テレビなどマスコミにも大きく取り扱われたものもあり、地元市町村のみならず広い地域にＰＲできたと考える。

具体的な効果は、これから現れてくるものと期待しているところであるが、これまでの効果を上げてみると、

①コマクサの増殖活動及び写真展の開催により、コマクサをはじめとする高山植物に関する問い合わせが多く寄せられるようになってきているとともに、写真展など、来年も是非見に来たいなど今後の開催に期待する声も寄せられている。

②イベント即売会の実施を契機にその後も園芸資材、シイタケほだ木の注文が寄せられるなど、わずかではあるが収入確保にも効果を上げている。

③手作り看板は、まだまとまった話にはなっていないが、これを見た市町村等から作成の依頼の話があるなど好評を得ている。

④職場においては、これら活動をとおして職場の一体感を醸成することができ、職場の活性化の面からも効果を上げている。

などが上げられる。

おわりに

ＰＲ活動は、森林・林業を知っていただくためにも、また、国有林を理解していただくためにも大切なことと考えるが、従来に比べ職員が少なくなっている現状では、少ない労力でより効果の高い活

動が必要になってきている。

こうした状況を踏まえた、平成８年度の我が署の取り組みは、植樹祭、コマクサ増殖活動などのように例年行い慣例化しているものに工夫を凝らしＰＲ効果を高めたものであり、玄関ロビーでの写真展は、資料の有効活用を図るために実施したもので、わずかな時間と手間ででき、さらに年間を通じた開催も可能なものである。

今後とも一層の創意工夫をしながら、職員一丸となった効果の高いＰＲ活動を展開していく考えである。